

ワークショップ 1

献血推進・予約システムの導入と課題

ワークショップ1

献血推進・予約システムの活用状況と課題について

—地域センターの立場から—

松室敬子, 鹿野祥平, 林 雅人, 吉村 誠, 谷 慶彦(大阪府赤十字血液センター)

【大阪センターの現状】

①新規会員登録状況

2019年度の近畿全体の新規会員登録目標数は43,000人。そのうち大阪センターの登録目標数は19,000人。全体の44.2%を占めている。2019年4月から7月まで近畿全体で順調に確保が進んでいるが、大阪センターでは献血バスの登録が伸び悩んでいる。

2018年4月から7月の平均登録者数、固定施設1,019人、献血バス700人に比べると、2019年度は同期間で固定施設が1,273人、献血バスが212人と大きく減少している。ラブラッド導入前は、仮登録用紙にメールアドレス等を献血者に記入いただき、職員が登録作業を行うやり方も実施してきたが、導入以降、献血バスにおける新規会員獲得にかかる有効な方策を見出せていない。今後は募集チラシを渡すだけでなく、初回献血者や体重60kg以上の男性には必ず声をかけ、少し時間をかけて説明していくことで打開していけると思われる。

②献血予約状況

2019年8月、近畿全体の献血予約率はわずかな増加は見られたものの全血で1.8%、血小板で21.8%、血漿で13.2%、大阪センターの予約率は全血で2.2%、血小板で16.2%、血漿で8.9%、近畿の中でも低い。

「献血推進・予約システム」の導入にあたり、大阪センターは平日の午前中の血小板を確保するために予約をスタートした。その後、各施設の状況に応じて、献血種類、時間帯の枠、ベッド数を増やしてきた。一気に予約枠を広げることは、予約をしなくても実効をあげてきた血液確保方法に支障が出ると懸念して、一定の周知期間も必要と考え、献血者の動向を見ながら段階的な推進を図ってきた。

施設間でも差が出ており、大阪内で予約率の高い枚方献血ルームでは、府内の献血ルームの中で

いち早くWeb予約の推進に取り組んだことにより、他の献血ルームより予約率が向上している。土・日曜日、祝日の混雑、予約をしなくても行けるときに行く、を貫くフリー献血者の対応を考慮し、おこるであろう献血者とのトラブルやシステム上の不具合などを検証しながら先行施設での発生事例を参考に進めてきた経緯がある。

「こんなところに献血ルームがある。献血に行ってみようか」と来所する人や初めての人、「今日、明日中にお願ひします」と急な依頼メールを受けた人が入り込む余地も必要である(表1)。

③予約率向上のために

予約率の向上を図るために、献血予約ができること、次回予約を推進すること、を現在実施している血液確保のキャンペーンやイベントに盛り込み、とくに平日の安定した献血者確保のために強化していく。たとえば「血小板献血ご依頼キャンペーン」は、各固定施設において、月・火・水曜日に応諾が見込まれる献血者に血小板献血を依頼し、血小板採血指示数を確実に確保する方策である。このキャンペーンは看護師がベッドサイドでこの人なら次回も血小板献血ができる、と確信できる人に次回献血をお願いし「ご依頼カード」を渡す。これに合わせて献血の予約ができること、また予約者には次回予約も併せてお願いでき、土・日・祝に來られる多くの献血者に平日への移行を試みていただくことも可能である(図1)。

【大阪センターの課題】

大阪センターにおける1番の課題は予約率の向上を図ること。示された目標達成に向けて予約枠の段階的拡大していく。全国共通のツールではあるが、その中に少しでも地域性や各施設の特徴を生かす工夫も必要である。どうしても血液確保が最優先になってしまうが、献血者と血液センター双方であらかじめ予測が立てられるというメリットを活用していきたい。フリー献血者も含め献血

者への情報提供やアプローチがまだまだ少ないように感じる。会員であることの特典やメリットがなければ献血者は離れていく。ワクワク感や期待

感、これは数値では計れないが、献血者の反応や声を参考にこのシステムを有効に活用していきたいと考えている。

表1 献血予約状況(8月・大阪)

	全血			PC+PPP			PPP		
	採血数	予約数	予約率	採血数	予約数	予約率	採血数	予約数	予約率
大阪府赤十字血液センター	367	12	3.3%	545	68	12.5%	337	27	8.0%
阪急グランドビル25献血ルーム	2,197	53	2.4%	852	136	16.0%	1,355	112	8.3%
あべの献血ルーム	1,919	62	3.2%	571	82	14.4%	1,348	93	6.9%
西梅田献血ルーム	885	28	3.2%	609	83	13.6%	671	58	8.6%
まいどなんば献血ルーム	1,570	21	1.3%	525	111	21.1%	631	68	10.8%
御堂筋献血ルーム	1,075	15	1.4%	327	52	15.9%	724	49	6.8%
門真献血ルーム	1,611	3	0.2%						
阪急茨木市駅献血ルーム	412	8	1.9%	290	53	18.3%	506	53	10.5%
京阪枚方市駅献血ルーム	510	29	5.7%	390	113	29.0%	367	67	18.3%
南大阪事業所	107	1	0.9%	73	3	4.1%	55	4	7.3%
堺東献血ルーム	468	12	2.6%	305	25	8.2%	457	41	9.0%
合計	11,111	244	2.2%	4,487	726	16.2%	6,451	572	8.9%

予約率は徐々に増えているが、まだまだ低い

予約率向上のために…

次回予約の推進強化

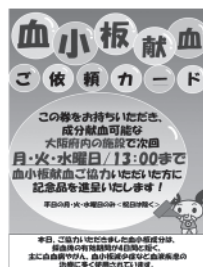
●月・火・水血小板献血ご依頼キャンペーン

各固定施設において、月・火・水に応諾の見込まれる献血者に血小板献血を依頼し、血小板採血指示数を確実に確保する方策

⇒看護師がベッドサイドでお願いする

他センターの成功例を参考

- ・ブロックセンター活用定例会
- ・近畿管内センター情報共有会



門真R(全血R)・南大阪事業所
(土曜日のみ開設)を除く

図1

ワークショップ1

献血推進・予約システムの活用状況と課題

—ブロックセンターの立場から—

藤原 敦(日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター)

【Web会員の状況について】

当ブロックのWeb会員数は2019年8月末現在、838,424人となっている。年代別の構成比を見ると、献血者全体の割合と同様にやはり、10代・20代前半の若年層会員の確保が今後も重要であると考えている(図1)。

【Web会員活用事例について】

本年5月、供給量の上振れによりA・O型の赤血球在庫が減少した際、当ブロックのWeb会員の活用を検討し、ブロック内メール一斉配信を試行した(図2)。

なお、応諾状況は表1の通りとなり、在庫の底上げとしては機能したと考えられる。

ただし、いつでもこのような配信を実施すれば良いということではなく、各現場において来場した協力者に次回予約を推進する等、次に繋げる施策として機能させることも重要と考える。また、各地域センターとの連携と情報共有も重要であり、より効果的な実施方法を検証する必要があると考えている。

【予約の推進とその効果】

当ブロックの成分予約採血率の推移は図3の通りとなっており、稼働前に比べ8ポイントほど向上した。献血推進・予約システムの稼働後より、各地域センターにおける推進の結果、予約採血数は順調に増加し20,000件を超えた。また、献血日当日の次回献血予約の推進も併せて実施している。

予約推進により、PC-HLAドナーの同型確保に効果が見られた。予約転用の比率が上がることで、

一旦確保済であった異型ドナーを同型ドナーに付け替えることが可能となり、前年度に比べ概ね同型率は向上した(表2)。

【今後期待すること】

一点目に、レポート機能の活用に関する情報提供の充実を期待したい。システムに蓄積されたデータは貴重なデータの蓄積であり、今後の献血推進にはそのデータの分析・活用が重要であるが、それにはレポート機能活用のスキルが不可欠である。トレーニングの提供や、各センターにて作成・活用しているレポートに関して情報共有の機会が充実することを期待する。

二点目に、即時に大規模なメール配信が可能となることを期待したい。緊急時に配信の遅延や他業務への影響を不安に感じることなく配信が可能となれば、時期を逸しない対応が可能になると考える。

最後に、在庫状況等に応じた最適な依頼対象者・依頼条件がシステム側から提案されるような仕組みが可能になれば、と考えている。応諾を得るにはどのタイミングで、どのように、誰に依頼をすれば良いのか？ということが、システム側から提案される、ということである。このことが実現できれば、状況に応じた最適な献血者確保に大きく寄与するものと考えている。

献血予約基盤としての、献血推進・予約システムにさらなる進化が加わり【献血者を呼べる】システムとなればと期待する。

今後も、本システムのさらなる充実と活用に向けて、当ブロックも努力して参りたい。

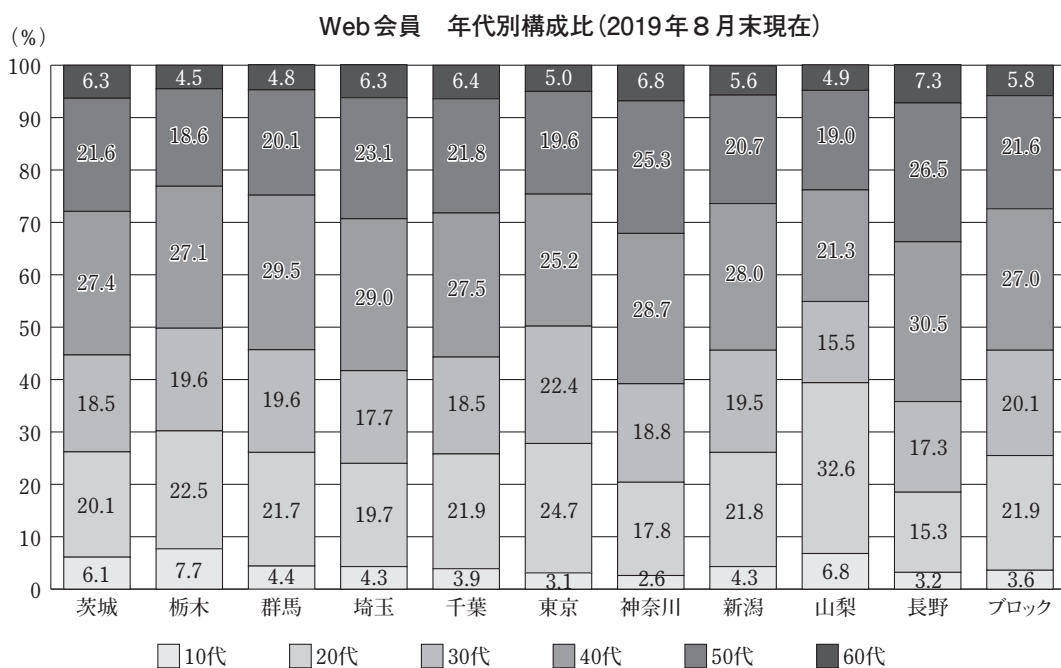
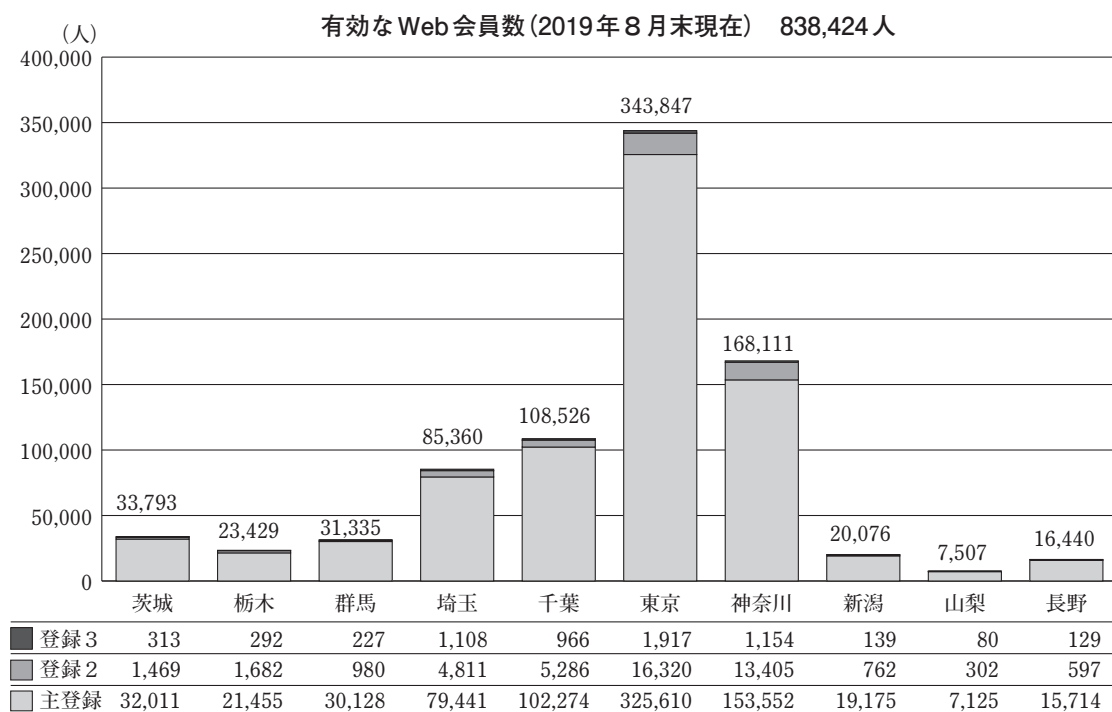


図 1

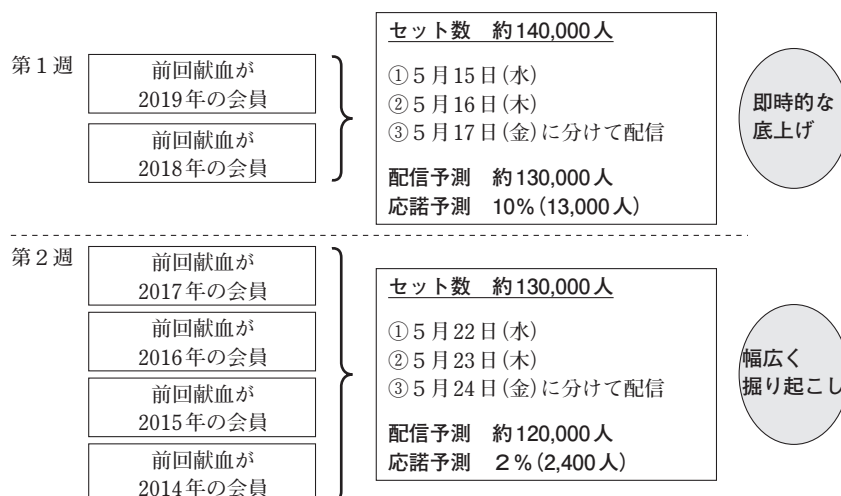


図2 配信スケジュール

表1 応諾状況 第1週・第2週合算

配信日翌日から2019年5月31日採血まで

配信セット人数			実配信人数			採血数											
						A型						O型					
A型	O型	合計	A型	O型	合計	200	400	換算(u)	PC	PPP	合計	応諾率	200	400	換算(u)	PC	PPP
茨城	7,011	5,807	12,818	5,734	4,731	10,465	0	436	872	8	9	453	7.9%	0	370	740	5
栃木	3,765	3,211	6,976	3,442	2,945	6,387	0	215	430	4	8	227	6.6%	0	197	394	1
群馬	6,130	4,930	11,060	5,016	4,048	9,064	0	393	786	11	13	417	8.3%	1	304	609	6
埼玉	13,295	10,949	24,244	11,992	9,912	21,904	5	850	1,705	8	12	875	7.3%	1	620	1,241	6
千葉	18,800	16,052	34,852	16,991	14,550	31,541	1	1,036	2,073	3	15	1,055	6.2%	1	881	1,763	11
東京	59,382	50,463	109,845	55,992	46,664	102,656	2	2,561	5,124	64	43	2,670	4.8%	3	2,186	4,375	45
神奈川	33,877	28,161	62,038	31,859	26,660	58,519	1	1,664	3,329	18	31	1,714	5.4%	1	1,533	3,067	8
新潟	2,728	2,341	5,069	2,567	2,211	4,778	0	197	394	4	11	212	8.3%	0	195	390	9
山梨	1,235	990	2,225	1,157	917	2,074	0	75	150	0	8	83	7.2%	0	64	128	0
長野	2,096	1,719	3,815	2,012	1,631	3,643	0	145	290	4	3	152	7.6%	0	149	298	0
合計	148,319	124,623	272,942	136,762	114,269	251,031	9	7,572	15,153	124	153	7,858	5.7%	7	6,499	13,005	91

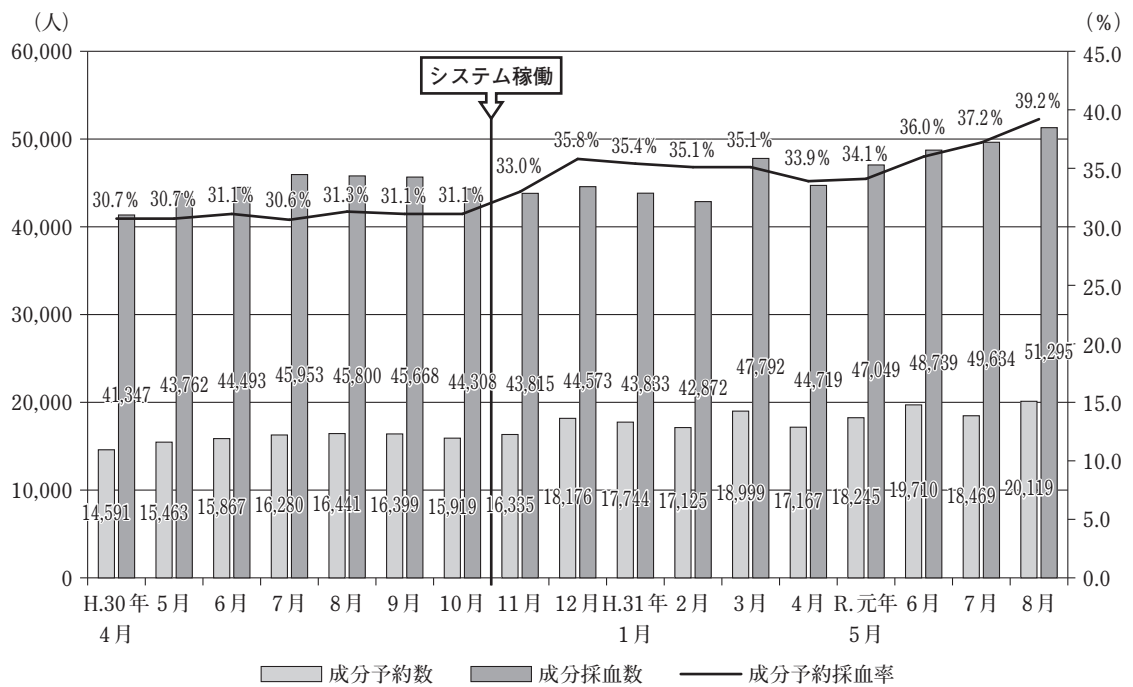


図3 予約状況の推移(関東甲信越ブロック：成分)

表2 PC-HLAの確保状況

確保方法割合		4月	5月	6月	7月	8月
令和元年度	予約転用	59.2%	54.4%	53.3%	55.5%	57.6%
	電話・メール(LINE)依頼	40.8%	45.6%	46.7%	44.5%	42.4%
	予約転用	44.4%	42.0%	34.2%	29.2%	37.5%
H30年度	電話・封書依頼	55.6%	58.0%	65.8%	70.8%	62.5%

↓

同型率		4月	5月	6月	7月	8月
令和元年度		70.5%	75.0%	75.2%	77.7%	77.4%
H30年度		70.6%	70.9%	73.6%	72.7%	68.7%

ワークショップ1

今後の献血推進・予約システムに期待すること

乳井和夫(岩手県赤十字血液センター)

【はじめに】

複数回献血クラブ・ラブラッドは、献血の予約、全国共通ポイント、献血時検査データのウェブ画面での表示等、献血者の利便性向上をキャッチフレーズに平成30年10月29日から新しく始まった。ここでは地域センターでのラブラッドの加入推進と予約献血への取り組みと今後期待することについて述べる。

【ラブラッドの加入推進について】

以前の複数回献血クラブは登録申込書による登録を行っていたが、ラブラッドではパソコンやスマートフォンによる登録である。そこで情報通信機器の保有状況(総務省情報流通行政局情報通信経済室「平成30年通信利用動向調査」)を調べた。スマ

ートフォンの保有率は約79%、パソコンは約74%、携帯電話は約46%で、現在の主流はスマートフォンになっている。

岩手県のラブラッド登録者数は本年8月末で5,429人と全国の中でも加入者は少ない(図1)。そこで、本年4月から新規登録を強化し、8月末までの5カ月間で約700人の新規登録者が得られた。また、8月末においてメールでの連絡が不通であった登録者は167人で、登録者数に占める割合は約3%と低値であった。

次に岩手県内で1年間に2回以上献血をする人の割合は、全血献血は年々徐々に増え平成30年度末では約50%になる。成分献血はほぼ複数回献血者の協力で約94%を維持している。複数回献血クラブ・ラブラッドの成果が期待される。

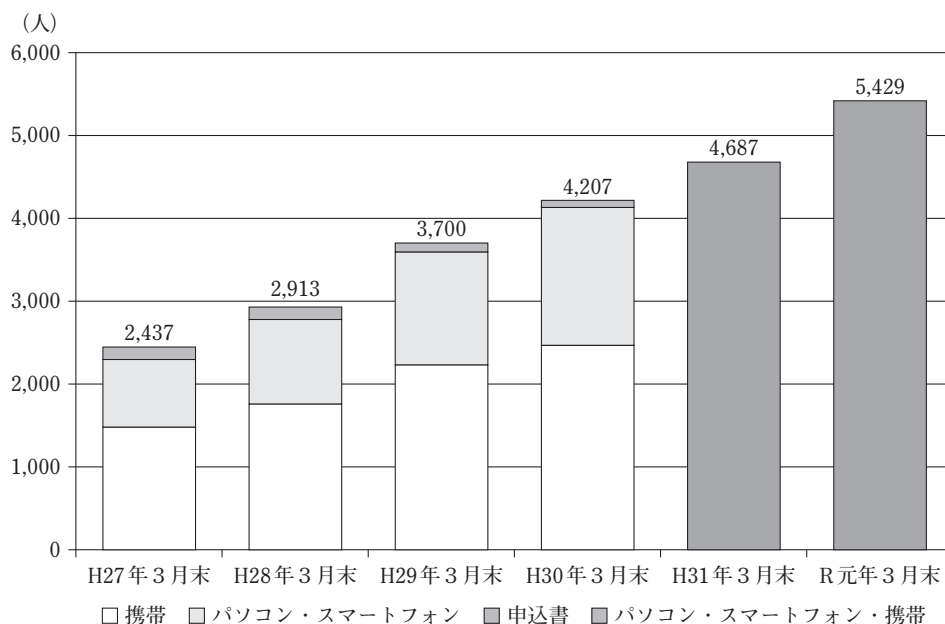


図1 岩手県内における複数回献血クラブ(ラブラッド)登録者数の推移

ラブラッドの会員サービスの一つとして献血時検査データがオンライン上のウェブ画面で見ることができる。過去3回分の検査データがグラフで表示され、基準値を外れたデータは赤色で表示される。また、臨床的意義や異常だった場合の対応も掲載されている。これにより、自分の健康状態を把握できることが献血者にとって一番のメリットである。

当センターでは、毎週火曜日に献血時検査データを用い、「献血de健康管理」として、貧血や成人病予防などの健康相談をしている¹⁾。貧血、高血圧、肥満、脂質異常、糖尿病など当センターで作成したパンフレットを用い健康管理の一助としていただいている。若いころから自分の健康に関心を持って、また献血しようと思っただくことが、今後の献血者確保に重要なことである。

その他のラブラッドの加入推進については、受付時や接遇時にはもちろんのこと、献血をしている時に看護師からも推進している。また、若年層献血者が多い会場(大学、専門学校)では可能な限り受付接遇職員とは別にラブラッド新規加入推進のために専属の職員を派遣している。

【予約献血の取り組みについて】

予約献血は献血者にとって、献血までの待ち時間が短く、オンライン上のウェブ画面での予約では空き時間を見ながら予約ができる、ポイントが付くなどのメリットがある。血液センターにとっては、計画数の確保状況がわかり、予約により混みあう時間帯の緩和にもつながる。また、予約者の中からHLA-PCの確保も可能となり、献血者への電話での依頼も減少する。このように予約献血に対するメリットは大変大きい。

図2は、もりおか献血ルームメルシーでの今年4月からの予約状況を示す。予約が最も多いのは休日の午前中、平均で7.3人であり、最も少ないのは平日の午後、平均2.7人である。このグラフからわかる通り、平日の予約が少ないことが課題となっている。

固定施設では接遇時に次回の予約をお願いしているが、その場で予約できなければ、後日、予約をしてからの献血をお願いしている。また、ラジオでは献血日程情報や予約献血の案内をおこない、ハガキやメールでの献血依頼ではURLや二次元バーコードを載せている。事業所等の移動採血では予約名簿の作成をお願いしており、事業所の担当

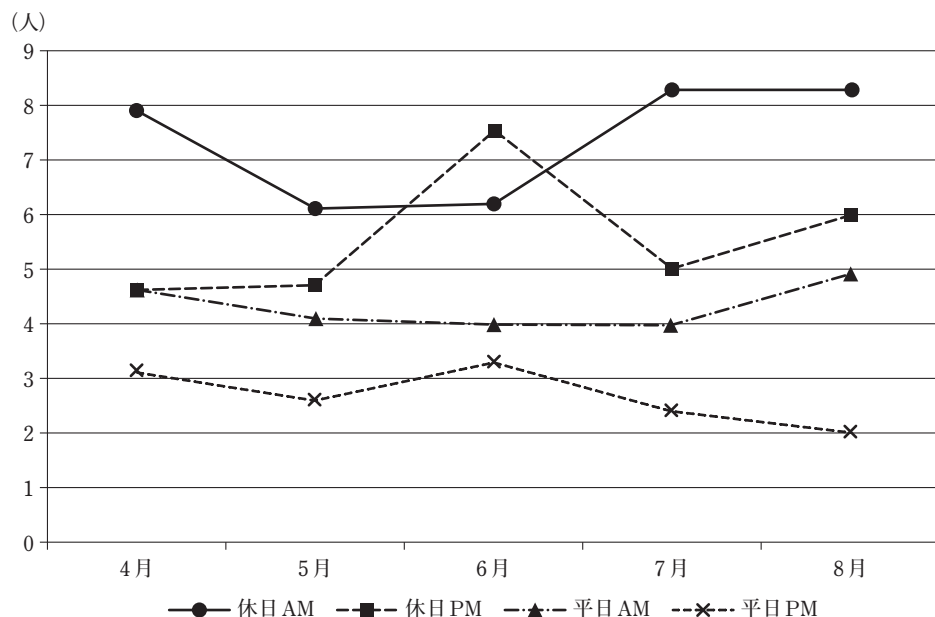


図2 もりおか献血ルームメルシーの予約状況(令和元年)

者と情報共有して献血者の増加について一定の効果을あげている。

【今後の献血推進・予約システムに期待すること】

献血者にとって、スマートフォンにより混雑状況が分かれば、当日、フリーで行こうと思っている献血者の方には大変便利である。予約画面に現在必要な血液型、献血種別が表示されると、献血者がそれを見て予約を合わせていただくことも可能となる。移動採血では混雑する街頭献血の会場で予約献血を推進したいと考えている。

また、献血時間の短縮を考えると、採血から終了までの間は採血副作用軽減の対応もあることか

ら、受付時間の短縮が望まれる。ラブラッドではすでにウェブ上で住所や電話番号の変更ができるが、問診回答には結構な時間がかかる。問診回答タブレットでは病歴や渡航歴について、前回は申告していたが今回は申告していない等、申告内容に不一致があると医師の問診時にも時間がかかることになる。現在の問診回答タブレットにおいて前回の入力した情報が反映され、さらに、事前の問診回答ができると受付時間の大幅な短縮が望める。今後、献血カード機能を持ったラブラッド専用アプリケーションの開発により、より献血者のアクセス向上や血液推進事業の向上につながる。

参考文献

1) 佐々木綾：パンフレットを活用した献血者の健康

管理について、血液事業、41(4):881～884, 2019